

国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 〒631-8505 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部内

Tel : 0742-43-6021 Fax : 074243-6021 E-mail: jifrs.kindai@gmail.com

郵便振替番号 : 00100-6-26448 国際漁業研究会

三菱東京UFJ銀行富雄(トミオ)出張所 普通口座 3698979 国際漁業研究会

2014年度第1号

2014年6月5日刊

目次

- | | |
|---|-----------|
| 1. 編集委員長あいさつ「IIFET 執行部員への就任」 | 八木 信行 |
| 2. 2014年度JIFRS大会の案内 | 綿貫 尚彦・事務局 |
| 3. 学会賞選考委員会よりお知らせ
ー学会賞(国内賞)候補者の推薦依頼ー | 黒倉 寿 |

1. IIFET 執行部員への就任

八木 信行 (国際漁業学会編集委員長・東京大学)

2014年の3月にIIFETで選挙があり、その結果2014-2018年までの期間におけるIIFETのExecutive Committeeメンバーに私が選ばれました(手前味噌な話題ですみません)。投票して頂いた会員の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

IIFETについて説明しますと、正式名をThe International Institute of Fisheries Economics and Tradeといい、アイアイフェットなどと発音されています。日本語では国際水産経済学会とされますが、定訳はなく、国際漁業経済学会などの名前で呼ばれることもあります。IIFETの事務局はアメリカのオレゴン州立大学内にあります。

2年に1度の頻度で大会を開催し、これまで16回の大会を開催しています。2004年には、品川の東京海洋大学(当時は東京水産大学)で大会を開催しました。私もその頃からIIFETに参加し始め、2010年のモンペリエ(フランス)、2012年のダルエスサラーム(タンザニア)、更にはIIFETと参加者が重複しているNAAFE(北米漁業経済学会)の2013年大会(米国フロリダ)で毎年のように口頭発表をしているうちに目を付けられたらしく、2014年の1月になって、アメリカの水産庁に相当するNMFS(National Marine Fisheries Service)に所属する人から私あてにメールが届きました。IIFETのExecutive Committeeに立候補してはどうかとのメールです。私が「分かった」と返事をする、IIFET事務局が即座に手続きをして、オンライン投票に入ったという展開です。その結果、PresidentにノルウェーのClaire Armstrong、その他メンバーに、Onyango(タンザニア)、Kahui(NZ)、八木(日本)が選ばれ

ました。

国際的な水産研究の場で、日本に積極的な役割を期待している人達が多いのは確かだと思われます。日本は、諸先輩方の営々とした努力によって IIFET での評価を確立させることができていると思われます。2004 年に東京で大会を開催したのは先述の通りですが、その際は、当時の J I F R S 名誉会長山本忠氏（故人）が開催費用として私財を投じられ、その一部を使って途上国の研究者を IIFET 会合に招聘する「山本賞」を創設し、以降、これまで山本賞（1500 ドル）を途上国からの参加者に授与してきています。前回タンザニア大会では、あわせて J I C A も、セネガル、ベナン、モロッコからの出席者に対して旅費の支援をするなどの貢献をしました。IIFET 事務局からも謝意が伝えられるなど、日本のプレゼンスも向上しています。

今回の選挙結果は、私自身、急な話で何をやる必要があるのかよく分かっていない状況ですが、日本の諸先輩方の力が大きい中で、これに見劣りしない貢献を行い、我々の後の世代にプレゼンスを引き継げるよう努力したいと考えています。

2. 2014 年度 J I F R S 大会の案内

綿貫尚彦（国際漁業学会理事・OAFIC）・事務局

日 時：2014 年 8 月 2 日（土）～3 日（日）

8 月 2 日午前：学会賞選考委員会、理事会等

午後：シンポジウム、懇親会

8 月 3 日午前：個別報告（個別報告希望者が多ければ総会后にも追加）

午後：総会

場 所：東京大学大学院農学生命科学研究科フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール

シンポジウム：「途上国と水産資源管理」

（概要）

多くの途上国で水産資源の減少が大きな問題となる中、我が国は 15 年以上にわたって水産資源管理の分野で技術協力に取り組んできました。途上国の漁業形態は日本に似ており、また過去に水産資源管理で苦勞した日本と状況が似ているため、日本の援助に対するニーズが高まっています。本シンポジウムでは、日本の国際協力の現状と事例を紹介しながら、欧米ドナーとの比較優位性や日本が得意とするコミュニティ主導の資源管理の特徴、日本のウィークポイント、ドナー間の援助協調、途上国から見た日本の協力などについて議論し、今後のあるべき姿を考えることにより、日本の国際協力事業の質的向上及び途上国支援につなげることを目的とします。

講演者や演題などの詳細は決まり次第、JIFRS ホームページでお知らせいたします。総合討論もごさいますので、水産協力にご関心のある皆様の奮ってのご参加をお願い申し上げます。

大会参加費：一般会員 2,000 円、非会員・学生無料

懇親会：一般会員 5,000 円、学生 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7月15日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込み下さい。

※個別報告は、1 報告あたり 25 分 (質疑含む) の予定です。個別報告を希望される会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを添えて、6 月 30 日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kindai@gmail.com) までお申し込み下さい。また、7 月 15 日までに報告要旨 (40 字×25 行以内) を、7 月 27 日までに報告資料 (当日までに改変可、事前に座長に渡します) を、それぞれメールで事務局まで提出して下さい。

※報告要旨集等は配布しませんので、要旨等は、各自で事前に JIFRS ホームページ (<http://jifrs.info>) からダウンロードをお願いします。(7 月 20 日頃に掲載します)

※詳細なスケジュールは随時ホームページに掲載します。

3. 学会賞選考委員会よりお知らせ

—学会賞 (国内賞) 候補者の推薦依頼—

黒倉 寿 (国際漁業学会学会賞選考委員長)

2014 年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので積極的に推薦してください。賞の種類は以下の 2 種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員 (個人)。過去 1 年間 (2013 年 1 月～2014 年 4 月) の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね 40 歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員 (個人)。本学会誌第 12 巻掲載論文 (会誌としては未刊行ですが on line ジャーナルの第 12 巻に掲載されている和文・英文の 3 件) が対象となります。

募集期間：2014 年 6 月 30 日 (日) 締め切り

推薦方法：推薦する賞のジャンルとその理由 (形式自由) を JIFRS 会長 (多田稔 tadacom@nifty.com) あて、E メールにて送付してください。

選考方法：会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2013 年度国際漁業学会大会の際に行う総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。